

令和6年度 学校評価実施報告書

学校名: 枚方市立藤阪小学校
校長名: 秋山 哲彦

1. 学校教育目標

ふ・深く考える子どもの育成 じ・自分の思いを伝えられる子どもの育成	さ・やさしい思いやりを持つ子どもの育成 か・輝く瞳を持つ子どもの育成
--------------------------------------	---------------------------------------

2. めざす子ども像

・明るく元気な子	・よく考え行動する子	・思いやりのある子
----------	------------	-----------

基本方針	重点項目	具体的な取組内容					
		本年度の重点的な取組(4月)	取組指標(誰が、何を、どのくらいの頻度で)	評価指標(目標)※具体的な数字を入れる	指標の結果	分析(成果と課題)	改善策
確かな学力と自立の力を育む教育の充実	主体的に学ぶ	○自分に合った学習方法を選び、粘り強く学ぶため児童を育成するため、子どもたちが選択することができる学びの機会を充実させ、基礎学力の向上を図る。	・子どもたちが主体的に、自らの興味・関心、自分にあった方法(メディア等)、課題の難易度等を自己決定し、学習に取り組めるよう、学期に数回程度スケジュールシートを活用した自由進度学習(「学習計画表」に基づいて自分のペースで教科内容を学び進める)に取組む。 ・子供たちが主体的に学びを選択し、自立した学習者になれるよう、機会の確保や、学校における学びの先にある社会を意識した授業改善、学習内容の重点化に取組む。	児童アンケートの「5Cに係る指標」において「チャレンジ」の項目における[強い肯定的な回答]の割合が全体65%以上	児童アンケートの「5Cに係る指標」において「チャレンジ」の項目における[強い肯定的な回答]の割合が全体65%以上を目標としたが、1学期末の時点で46.7%、2学期末の時点で50.3%と少しずつ目標に満たなかった。しかし、[肯定的な回答]の割合の数は1学期末の時点で85%、2学期末の時点では89.9%と上昇していた。…○	「協働的に学ぶ」「安心して学ぶ」は概ね目標を達成することができた。校内研で「聞き方名人・話し方名人」の周知し、言葉をつないで友だちと話し合う活動に取り組んだ結果が現れた。 学習を個人で進めるだけでなく、友だちとの交流などを経てブラッシュアップしていく経験が実を結んだ。	・「主体的に学ぶ」の項目において「強い肯定的な回答」の数値を伸ばすためには、子どもたちの自己調整力を高める必要がある。その取り組みとして、子どもたちが「問い」をしっかり持ち、学びのサイクルを回していくことが重要であると考え。また、子どもの様子を見て、いいアドバイスをしている子どもを価値づけるなどを通して、お互いを高め合っていく関係性を作ることが必要である。
	協働的に学ぶ	○協働的な学びを充実させるため、互いに認め合い、学び合える人間関係をはぐくむ	・自分と異なる考えを持つ人を尊重し、認め合いながら協力して取組むことができるような協働探求や協働制作の活動を様々な教科において計画的に設定する。 ・交流の時間をより確保するとともに、協働的な学びの質を向上させるためにタブレットの「ロイノート」や「Googleスライド」を活用し、様々な考えを交流して学びを深めたり、協働制作の充実を図る。	児童アンケートの「5Cに係る指標」において「コミュニケーション」の項目における[肯定的な回答]の割合が全体の85%以上	「コミュニケーション」の項目における[肯定的な回答]の割合が全体の85%以上を目標とし、1学期末の時点で75.9%、2学期末の時点で80.6%とおおむね、各学期の目標を達成することができた。…○	課題としては、「主体的に学ぶ」の項目において「強い肯定的な回答」が目標値に達することができなかった。 学習のスタート時点では主体的に取り組むことができたが、目標達成に向けて自らの学習を調整することが難しく、課題が期限までに達成できない児童もいた。	・多様な子ども一人ひとりが自立した学習者として学び続けていくような、個に応じた指導を充実していくことが必要である。
	安心して学ぶ	○話す力、聴く力の向上を図る	発表名人やあいづち名人といった学校独自の指標を設け、あたたかい聞き方話し方の例を上げることで、言葉の違いを通して、すべての学習活動でいじめが発生しにくい人権感覚、豊かな仲間づくり・集団づくりを目指す	学校教育自己診断の児童向け「あなたの学級は、授業中聞んでも笑われない」に[肯定的な回答]をした児童の割合90%以上	同じ質問を、児童アンケートでも実施。[肯定的な回答]をした児童の割合が1学期末の時点で89.2%、2学期末の時点で91.3%と目標を大きく上回ることができた。…◎		
豊かな心と健やかな体を育む教育の充実	豊かな心の育成	・人として正しく判断し、主体的に行動しようとする子どもを育てる。 ・人の痛みが分かり、共に支え合う子どもを育てる。	道徳授業の振り返りにおいて自己との対話を深めるために感想を授業ごとに1回行い、自己の生き方について考える時間を確保する。	学校教育自己診断の児童向け「授業などで豊かな心や自分の生き方、人としての生き方について考えることができる」に肯定的な回答をした児童の割合80%以上(前年度73%)	肯定的な回答が74.5%と目標を下回った。…▲ しかし、3・4年生では84%上回る結果であった。	・アンケート結果から、子ども自身が自分に自信や自己肯定感を持っていないことが分かった。 ・人権研修を実施することで、支援学級の児童はもちろん、特別な配慮の要する児童にも目を向け、日頃の学級経営に生かすことができた。	・きめ細やかな指導で、ていねいに話を聞いたり、基礎学力を底上げできるように、ゆとりのある時間を設定する。そのことにより、「分かった、できた」という気持ちが見え、児童の自信に繋がると考えられる。
	自己有用感の向上	○児童が主体的に決定する機会を増やし、自己有用感を向上させる。	・子どもたちが主体的に、自らの興味・関心、自分にあった方法、問い・学習過程・学習形態・協働、課題の難易度等を自己決定する場面を週に1回以上設定する。	学校教育自己診断の児童向け「自分のよい所を知っている」に肯定的な回答をした児童の割合80%以上(前年度74.7%)	肯定的な回答が74.6%と目標を下回った。…▲ しかし、3年生では87%上回る結果であった。	・年間を通して、約30%上昇したのは、昨年度までの予備運動の取り組みが活きたのだと考えられる。	・授業や行事を通して、子ども一人ひとりが達成感を持てるような目標を定め取り組む。 ・立ち幅跳びの記録が全体的に伸びているため、引き続き取り組みを行っていく。
	人権教育の充実	○一人ひとりの痛みがわかり、支え合う子どもを育てる。 ○多文化の理解を深め、お互いを分かり合える子どもを育てる。	・各種研究会に参加し、校内研修を開催する ・支援通常担任会を通して、支援教育を推進する ・児童の実態を交流し、共通理解・共通認識を持って全職員が指導する	・年間に1回以上の研修の実施し、教職員の知識と指導力を向上させる。	・人権研修においては、年間3回実施することができ、どれもすぐに実践できるような内容で、これからの教育に生かせることができた。…○	・アンケートの結果、肯定的な回答が80%を上回ったのは、食育の様々な取り組みによるものだと考える。	・小学校の6年間で系統的な食の指導を行い、食についての学びを深めていく。 ・給食はもちろん、教科の中にも食に関わる内容があるので、その学習の際にも、食育を意識して取り組む。
	体力の向上	○児童が体力の向上を実感する機会を増やし、健康の保持促進を行い、体力の向上を図る。	・3~6年生を対象に、1学期には、体力テストを実施する。2学期以降は、学期に一回立ち幅跳びの記録を行う。	年間を通して立ち幅跳びの記録を取り、記録を5cm伸ばした児童の割合 全体の30%以上	年間を通して30%の児童が5cm記録を伸ばすことを目標としてきた。2学期末時点で、60.2%と目標を大きく上回ることができた。…◎		
	食育の推進	食の知識を高めバランスよく食べて健康な体をつくることをねらいとした食育を推進する。	給食時や教科等の指導、委員会活動での掲示物作成、毎月のお便りを通して、食の知識や関心を高める。	学校教育自己診断の児童向け「授業や給食で、食の重要性を学んでいる」に肯定的な回答をした児童の割合80%以上	肯定的な回答が84.3%で目標を達成した。…◎		
教職員の資質と指導力の向上	服務規律の徹底	服務規律の徹底について、校長のみが発信源となっていた体制を変える。都度、不祥事例を取り上げたミニ研修を実施し、全教職員の意識改革を推進する。	府の報道資料やメディアでの不祥事案を職員用Chatで定期的(年6回以上)に周知、紹介し、不祥事に対する意識を高める。	不祥事ゼロ	不祥事ゼロ…◎	不祥事案を定期的に周知、紹介することで、不祥事に対する意識が高まった。 ・各教員が校内の各研修や先進校視察などを積極的に受講し、授業づくりや指導スキルの向上につながる事ができた。	・次年度も引き続き、風通しの良い職場環境づくりに努め、不祥事が起こらない風土を醸成していく。
	研修の充実	それぞれの教員が受けた研修を個人だけのものにするのではなく、全員に広め、学び成長していける職員集団になる。	各教員が、それぞれ受けた研修内容のうち、活用できそうな内容を月一回開催のふじらボヤ、学期末にアウトプットする場を設け、みんなで共有する。	教員全員の指導力向上。 学校教育自己診断の児童向け「校内研修で学んだことは、授業づくりに生かされている」肯定的な回答の割合80%以上	肯定的な回答が85.7%で目標を達成した。…◎		
学びのセーフティネットの構築	安心・安全な環境	・清潔で落ち着いた教育環境を確保・維持する。 ・校内の掲示物等の整理整頓。各教室の整理整頓を行い、教育環境を整備する。 ・各教室をUD化する。	・安全・環境教育担当者が、日常の清掃活動の徹底や美化委員会等の活動を活性化させる。 ・管理職が月1回以上、校舎や各施設、設備を定期的に点検し、学校の安全性向上を図る。 ・安心して学べるように、統一した学びの場を周知し、各教室のUD化を図る。	学校教育自己診断の児童向け「落ち着いた雰囲気の中で授業を受けることができる」に肯定的な回答をした児童の割合80%以上(前年度78.6%)	肯定的な回答が75.5%と下回る結果となった。…▲	アンケート結果を見ると、3~5年生は80%を上回っていたが、1,2,6年で下回る結果となった。各教室の前の掲示を少なくし、学習に集中できるように取り組んだ。「危ないことで、身を守るためにどうしたらよいか教えてくれる。」には、89.9%の児童が肯定的な回答をしているため、避難訓練や安全に関する教育の成果が見られた。引き続き取り組みを行っていく。	・学習に必要なものを吟味し、安心して落ち着いた環境で学ぶことができるように、学習環境を調整していく。 ・清掃活動の時も教師が見回り、隅々まで掃除ができるように指導していく。 ・児童数が減ったことや清掃時間が短くなったことにより、教室以外の担当の人数が減り、最後の後始末まで行き届いていないところがあるので掃除の始まるの時間や質を向上させていく。
家庭・学校・地域の連携	情報発信による開かれた学校の実現	学校の教育方針や日頃の子どもの教育活動の様子をブログ等で情報発信することにより開かれた学校を実現する。 ・授業アンケート・学校教育自己診断を年1回 ・学校運営協議会年4回(2回は授業観察)	学校教育について子どもたちの日々の教育活動の様子をブログ等で1日1回を目安とした情報発信を行う。 ・授業アンケート・学校教育自己診断を年1回 ・学校運営協議会年4回(2回は授業観察)	ブログ閲覧数(アクセス回数)35000件をめざす。(昨年度31889件)	主に子どもたちの日々の教育活動の様子をブログ等で1日1回を目安とした情報発信を行った。 ・ブログ閲覧数(アクセス回数)37242件(予測値) …◎ (4月-11月のアクセス回数を参考) ・授業アンケート・学校教育自己診断を実施した。 …◎ ・学校運営協議会を年4回実施した。 …○	学校ブログへのアクセス数は、昨年度に比べ、およそ6000件増となった。 学校教育自己診断(保護者)「学校は、学校ブログや学校通信を通して、学校の取組や子どもの様子を積極的に発信している。」の質問項目… 肯定的回答98% ・学校運営協議会で適切な学校評価して頂き、助言に基づいたPDCAサイクルの学校運営自己診断(児童・保護者)の調査結果は、ほぼ全ての項目で改善が見られた。 ・今後とも一層、子どもたちの学校での学びがよくなる情報発信に努め、開かれた学校教育を実現していく。 ・学校運営協議会で適切な学校評価して頂き、助言に基づいたPDCAサイクルの学校運営を行っていく。 ・調査結果のデータ分析を基にした数値目標を掲げて、学校運営を行う。	

学校関係者評価(学校運営協議会または学校評議員と保護者からなる学校関係者評価委員会による)年度末	
評価結果	改善に向けた支援策
<p>・学力が心配になった。全国学力調査の結果は、今年度だけのものかもしれないが、学校として受けとめて、学力を向上させていく取組を学校全体で進めてもらいたい。</p> <p>・学校教育目標自己診断結果の図書教育について、家庭での読書活動があまりされていないので、家庭と連携した取組を推進してください。</p> <p>・食育も大変重要である。今後も系統的かつ計画的に、家庭とも連携して取組を進めていくように。</p> <p>・学校の取組が分かるように、ブログ等を通じて広く発信されている。(授業観察)</p> <p>・子どもたちが自然体で学校生活を送っており、安心して授業を受けている様子である。</p> <p>・先生方の子どもに対する向き合い方がよいので、子どもたちも素直に個性を出せている。</p> <p>・学習環境に、配慮されているため、子どもたちも落ち着いて学習に向かっている。例えば、雑巾がきちんと決められた場所に綺麗に掛けられていた。</p> <p>・子どもたちが能動的、主体的に学習活動に取り組んでいる。</p> <p>・6年生の総合的な活動の時間の取組が素晴らしかった。児童が生き生きとしていた。教科横断的な学習も、これからは重要だと思う。社会に出たときに生きる力になる。</p> <p>・体育館での発表は、どの学年も工夫された素晴らしいものだった。</p> <p>・土曜参観を生かして、保護者を交えた学習を計画的にされていた。</p> <p>・各教室、ユニバーサルデザインに取り組みまれていると思うが、黒板横のカーテンを活用されている教室と、そうでない教室があった。学校として統一して活用していけば良いと思う。</p>	<p>・学力の向上については、児童の主体的な学びを充実させるため、個別最適な学びを実現できるよう、授業や教育活動の中で、自己選択・自己決定できる場面を増やしていく。また、対話的な学びを中心に協働的な学びの実現を図る。</p> <p>・読書活動については、学校では図書の時間だけでなく、普段から本に親しむように、学校司書や社会人活用(おはなしキュービット、ポケットの会)による絵本の読み聞かせ、読み語りの取組を継続して行っていく。また、家庭にも、本に親しむ機会を積極的に持つよう働きかける。</p> <p>・組織的かつ系統的・計画的に教育活動を行っていく。</p> <p>・今後も、社会で生きる力として教科横断的な学びを系統的・計画的に充実させていく。</p>